

学術資料講演会要旨

関西学院大学図書館所蔵資料の特徴:その発展に向けて

特別コレクション・自筆書簡・手稿・その他貴重資料を中心に

関西学院大学名誉教授

田中 敏弘

1. 大学図書館の価値あるいはその質を決めるのは何か

普通、大学図書館は2つの機能をもっています。それは学習図書館と研究図書館の機能です。学習図書館としての機能上の問題は、それ自体重要ですが、それは別にして、今日は研究図書館としての機能に焦点を合わせ取り上げることになります。

では研究図書館としての大学図書館の価値あるいは質を決めるものはいったい何かがまず問題になります。第一に建物・設備・環境があります。次にコンピュータ化されたインテリジェント図書館であること。こうしたハード・ソフト両面をどれほど備えているかが、今日の大学図書館の必須条件であることは言うまでもありません。

しかし、図書館の中心は、こうした建物・設備に支えられて、どのような資料を所蔵しているのか、そしてそれらの資料はどのように利用できるのかという、所蔵資料とその利用の質と量にかかっています。

現在本大学図書館は約122万冊（図書のみ。うち上ヶ原キャンパス115万冊、神戸三田キャンパス7万冊）を所蔵していますが、所蔵資料に関して最も重要なのは、大学図書館がどのような総合的コレクション・ビルディングを行い、またこれから行おうとしているのかということです。どのような総合的な収書・選書体制をもつかが問題です。これには伝統的媒体としての図書、雑誌、マイクロフィルム・マイクロフィッシュに加えて、CD-ROMその他の電子媒体の間のバランス問題もあります。さらに重要なのは大学の研究・教育の特性との関連です。

こうした総合的なコレクション・ビルディングの基本方針の中で、研究に向けてどのような特別コレクション・ビルディングの方針をもって、これまでコレクションを構築してきたか、そしてこれからどう構築していこうとしているのか。特別コレクション構築の基本方針が第一の問題といえます。

第二の問題は、特別コレクションの管理・保存・利用とコレクションに関する情報の発信体制です。そして第三には、これらの資料の利用に関連した高度なレファレンス機能がどこまで備わっているかが重要です。こうした基本的な観点から本大学図書館も絶えず問い直されてゆく必要があります。



2. 関西学院大学図書館所蔵特別コレクション・貴重資料収集の歴史と現状

1. 本大学図書館蔵書、とくに特別コレクション・貴重資料全体の特徴把握の試み

これまでこの大学図書館が所蔵する17・18・19世紀イギリスを中心とした政治・経済・社会思想史関係の特別コレクションについて、私は3回ほど講演をしたことがありますが、これらはいずれも、せいぜい社会科学のうち経済学に関係した特別コレクションに触れたにとどまります。また特別コレクションの目録や図書館報の『時計台』に掲載された資料紹介や解題をみても、それらは個々のコレクションに関するものであり、関西学院大学図書館の特別コレクション・貴重資料の全体を取り上げ、その特徴を明らかにすることは、残念ながらこれまで行われてきませんでした。特別コレクションを中心に、本大学図書館の蔵書全体の特徴を取り上げるのは、今回が初めての試みということになります。したがって今回の私の試みはひとつの評価・展望であるに過ぎず、今後の捉え方に示唆を与える基礎ともなれば幸いです。

2. 特別コレクションの歴史と現状

1) 4種類のコレクション

本大学図書館にはユニークな特別コレクションがかなり所蔵されています。その大要は「資料」(P. 21-25)に挙げておきました。これらのコレクションは、大きく4種類に分けることができます。

ホッブズ、ロック、スミス、ミル父子、のような、卓越した学者・思想家の著作とその研究文献から構成されるもの。

特定のテーマに関連した体系的コレクション。たとえばスコットランド啓蒙やイギリス社会政策、イギリス社会科学古典資料、宗教改革史・教会法史などがこれに入る。

柴田文庫や堀文庫のように、収集者や収集に関連ある人の氏名を冠したコレクション(丹羽記念、佐藤 清、粟野、赤井、小宮、高坂、梅田、室井、玉林、恒藤、山本、など)。

クラーク＝ギディングズ往復書簡やイギリス功利主義・原典コレクションのように、主として自筆書簡・ノート・日記などの手稿類からなるもの(堀文庫も一部手稿を含む)。

これらの特別コレクションの概要を示すため、「資料」では、とりあえず簡潔な説明をつけておきましたので参照して下さい。もちろん今日は、これらのすべてにわたって解説することは不可能です。そこで、さまざまな制約も考慮し、いくつかの主要なコレクションに焦点を絞って取り上げることで、所蔵特別コレクションの「全体的特徴」を概括的に明らかにできればと思います。ただ便宜上、社会科学関係と人文科学関係とに分けて取り上げることにします。

2) 社会科学関係コレクション

柴田文庫

本学の特別文庫は1949年に所蔵されるようになった柴田



The Crisis, vol. 1, no. 1, 1832

文庫が第一号です。これは、本学の旧高等商業学部の教授で、ウォルストンクラフト、オウエン、モリス、およびイギリス自由貿易運動史の研究者だった北野大吉教授が、同窓の柴田亮一氏の資金援助によって蒐集した19世紀イギリス経済・社会思想史関連の文庫です。オウエン、ウォルストンクラフト、ウィリアム・モリスを中心とした300冊ほどの小コレクションです。ですが、とくに「資料」にも記しておきましたように、これは当時学内外の反響を呼ぶ質の高いものであり、本学の教員の研究水準のひとつの到達点を物語るもので、本学の研究史の上でひとつの画期を示すものといえます。

堀文庫

堀文庫は、本学で永年経済学史・社会思想史を講義され、経済学史学会創立の貢献者であり、その代表幹事を務め、学士院会員となり、11年の永きにわたって本学の学長を務められた、堀 経夫教授の蔵書の一部です。これは小さなものですが、プルードンやコベットなど19世紀イギリスおよびフランス社会思想史関係書(その主なものは171点)からなっていて、柴田文庫と関連が深いものです。

堀教授の旧蔵書は東は慶應義塾大学の高橋誠一郎教授の蔵書と並ぶ経済学史・社会思想史に関連した蔵書として名高いものでした。その一部(経済史関係)は関西大学に入っていますが、大コレクションの中心部分は、現在、大阪学院大学図書館に入っています。教授が1981年に他界されてのち、経済学史・社会思想史関係書と和雑誌と共に、教授自身のノート・原稿・日記などの手稿類などが、これらに加えられています。

トマス・ホッブズ著作文庫

トマス・ホッブズ(Thomas Hobbes, 1588-1676)は、言うまでもなく、ロックと共に17世紀イギリスを代表する思想家です。ルネッサンス以来の近代哲学を背景に、物体論、人間論、国家論の三本柱からなる哲学体系を構築したと言われています。目録で岡本教授も書いておられるように、このコレクションは138点、158冊からなっていますが、H. マクドナルドとM. ハーグリーヴズのホッブズ研究ビブリオによれば、ホッブズの著作の約40%を越える諸版が含まれる有数のコレクションです。これがとくに優れている点は、ホッブズの有名な主著『リヴァイアサン』(1651年)が、初版だけでなく17世紀に出た7つの版のすべてが揃っていることです。また最大の稀覯書のひとつとされている『哲学要綱 第三部、市民について』(ラテン語版初版、1642年)が含まれているほか、非常に希少な諸版や出版当時の反応を示す著作などが収集されています。このコレクションはわが国ではずば抜けた最高のホッブズ・コレクションと言って間違いありません。



Thomas Hobbes, *Leviathan, or, The matter, forme, & power of a common-wealth, ecclesiasticall and civill*, 1651

アダム・スミス著作文庫

経済学の創始者とされるアダム・スミス(Adam Smith , 1723 - 90)の著作は、よく知られた『国富論』(1776年)と、その17年前に著された『道徳感情論』(1759年) および彼の死後友人によって出版された『哲学論文集』(1795年)の3冊だけです。スミス研究はこれまで膨大な蓄積をのこしており、今も盛んで、スミスの思想は今日も生きています。

本学のコレクションは、もともと79点、162冊と、ヒュームのスミス宛自筆書簡1通からなる小コレクションです。しかしこれには優れた特徴がみられます。それは、『国富論』関連の諸版が全部で43あり、なかでもダブリン版初版、3版、バーゼル版といった珍しい版が入っております。その外国語訳もかなり揃っています。

第二の『道徳感情論』については、3版と5版が欠けているものの、よく揃っており、非常に稀覯とされる最初のフランス語訳が入っています。第三の『哲学論文集』については、初版を初め5つの版が含まれております。

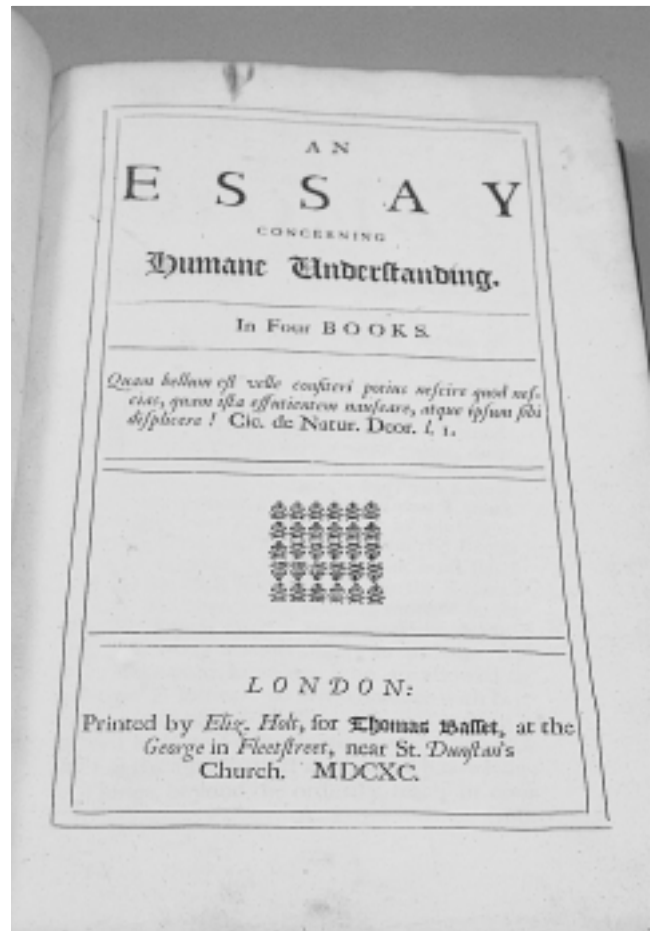
このコレクションのもうひとつの大きな特徴は、スミスの先輩・親友であるヒュームがスミスに宛てた自筆書簡1通(1772年11月17日付)です。この書簡が確かにスミス宛のヒュームの自筆書簡であることの確認作業と、その内容と意義についての調査・研究は、たまたま私が担当しました。この書簡はスミスとヒュームの友情をよりよく理解する新しい伝記的資料であるばかりでなく、『国富論』の執筆に関連した、ヒュームによる資料提供を示す点で、『国富論』の形成上の意義にも関連しています。

このコレクションは、世界最大であるハーヴァード大学のヴァンダーブルー・コレクションに比べれば、確かに小振りなものです。わが国に存在するスミス・コレクションとしては、かなりまとまったもので、その価値は低くありません。これは後になんか補充されていますが、今後も継続した補充作業によって、一層価値の高いコレクションとなることは確かです。

ジョン・ロック著作文庫

ジョン・ロック(John Locke , 1632 - 1704)は、ホッブズと共に、17世紀イギリスを代表する思想家であり、とくにそのイギリス経験論哲学、および近代民主主義思想は著名です。ことに、『人間知性論』(1690年)や『統治二論』(1690年)はよく知られています。ロック研究もまた、今日膨大な研究蓄積の上に成りたっていますが、とくに第2次大戦後のラブレース・コレクションとメロン・コレクションのロック関係資料の公開以来、新展開をみせ、ロック研究の水準が飛躍的に向上しました。ロックは、哲学(ことに認識論) 政治思想、経済思想、宗教思想、教育思想等、きわめて広い領域において、今も重要な思想家であることは言うまでもありません。

本学のコレクションは、224点、328冊からなりますが、そのうちロック自身の著作は181点(うち1点は自筆手稿)におよび、その主著は各版にわたってほとんど揃っています。また各種の『ロック全集』もよく揃っているのが特色といえます。これほどのロック・コレクションは、わが国では他になく、ロック自身の著作に関するかぎり、外国でもこれほどのものは珍しいといえます。



John Locke, *An essay concerning humane understanding*, 1690

ジェイムズおよびジョン・ステュアート・ミル著作文庫

これは、父のJames Mill(1773 - 1836)の著作3点と、息子のJohn Stuart Mill(1806 - 73)の著作と研究文献、合わせて122点、150冊からなっています。ミル父子、とくに息子のミルは、19世紀にスミス、マルサス、リカードを経た古典派経済学を継承し、新しい時代の要請にこたえて、新しい思想を吸収し、経済学に社会哲学を導入して、経済学の再構築を図ると共に、新しい学問体系を目指した思想家です。今日新たな現代的視点からその意義が高く評価されている思想家です。

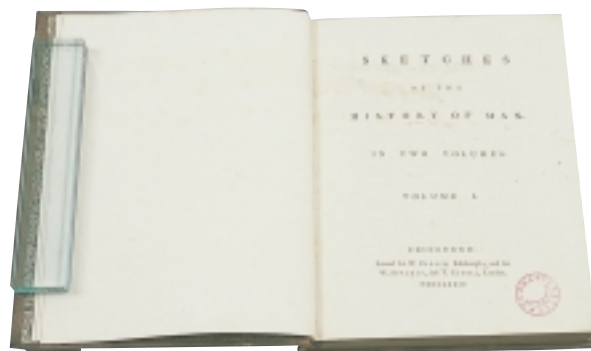
本学のコレクションの特色としては、息子ミルの著作が71点に及び、その主要なものは各版ともほとんど含まれており、わが国でも有数のミル・コレクションといえます。しかも、これにはJ. S. ミルの貴重な自筆書簡6通が含まれており、すでに井上 琢智教授によりその内容は紹介されています。このコレクションは、すでにかなり補充されていますが、今後各種の外国語訳などの一層の補充によって、わが国で最も有力なミル・コレクションとなることが期待されています。



J. S. Mill, *The subjection of women*, 1869

スコットランド啓蒙思想史コレクション

スミス著作文庫と最も深く関連し、それを直接補う性質をもつのが、このスコットランド啓蒙思想史コレクションです。アダム・スミスの経済学や思想は18世紀スコットランド啓蒙思想という時代潮流の中で形成されたからです。このコレクションは、その目録で竹本 洋教授が書いておられるように、18世紀スコットランド啓蒙における、法・政治思想史、社会思想史、経済思想史だけでなく、広く哲学、倫理学、宗教思想、美学、文芸評論などに関連した文献、212点、371冊からなっています。これは広い啓蒙思想史の上で、18世紀スコットランド啓蒙思想に関連した不可欠のコレクションですが、デイヴィッド・ヒュームとケイムズを中心に、D. ステュアート、ロバートソン、ハチスン、ファーガスン、リード、ジェイムズ・ステュアート、その他多くの思想家の著作が含まれています。しかしスコットランド啓蒙自体は、80年以上にわたり多彩な領域に及ぶものであるため、これから補充されるべき重要な文献は少なくありません。補充は今も進行中です。



Lord Kames, *Sketches of the history of man*, 1788

イギリス社会政策コレクション

新しい大学図書館の開館記念として1997年に購入された3つのコレクションは、ホブズ著作文庫のほかに、イギリス社会科学古典資料コレクションとイギリス社会政策コレクションです。このうち、イギリス社会政策コレクションは、正確には「1557年以降のイギリス社会政策：貧困・慈善・公的給付」というタイトルをもっている320点、約500冊からなるユニークなものです。これは、経済学部池田 信教授の解説が目録にあるように、救貧をめぐる16世紀以来のイギリスの長い歴史に関する極めて貴重な体系的なコレクションです。この問題に関する法、政治、経済、社会に関連する歴史の実態と思想史資料が含まれています。なかでも、イングランドとは異なるスコットランドの救貧法関係の文献にとくに優れています。この問題に関するコレクションとしては、国内は無論のこと、世界的にみても有数のコレクションです。今後これをフルに利用した貧困と救貧をめぐる社会政策史と思想史の研究が待たれています。



An ease for overseers of the poore, 1601

イギリス社会科学古典資料コレクション

これは、目録中の篠原 久教授の解説にもあるように、17世紀から19世紀にかけての経済思想史、社会思想史上の多くの稀覯本を含む貴重な図書およびパンフレット類370点からなっています。このコレクションは、本来、以上に取り上げてきた特別コレクション8つを補充・補完する目的から、それらに

含まれる文献との重複を極力避けながら、とくに購入されたものであり、これによって本学図書館が所蔵する17・18・19世紀イギリスを中心とした社会科学関連コレクションがかなり強化されることになりました。詳細については目録に当たっていただくとして、たとえば経済学史関連では、ベティ、デュト、カンティロン、ローダーデイル、リカードウ、マルサス、A. ヤングの稀覯書や、社会思想史の分野では、モンテスキュー、ドルバックの著作などが含まれています。またフィッツハーバート旧蔵の146点に及ぶ18世紀関係の珍しいパンフレットも含まれています。

ところで、本学の特別コレクションの内容にみられる変化のひとつとして、図書などの印刷物だけでなく、新たに書簡・ノート・日記といった手稿類の所蔵が増加してきたことが指摘できます。既に触れたヒュームやミルの自筆書簡がそうですが、これは研究動向や研究水準と深く関連しています。日本の研究者もこうした第1次資料にアクセスし、調査・研究する環境が整備されてきたことと、同時に研究水準も高度化してきたことの現れといえます。

これに対応して、大学図書館としては、こうした手稿類の整理・補完・利用についての専門的知識と技術が必要となっています。したがって、そのための特別な研修やレファレンス機能の充実が大学図書館の質の確保の上でますます重要となっています。こうした手稿を含む、あるいはそれを中心とした特別コレクションとして、比較的最近入手されたクラーク＝ギディングズ往復書簡とイギリス功利主義原典コレクションをあげることができます。前者は1995年、後者は2000年に所蔵されています。

クラーク＝ギディングズ往復書簡(1886 - 1930年)

この The Correspondence of John Bates Clark written to Franklin Henry Giddings, 1886 - 1930は、アメリカにおける近代経済学の成立に最も大きく貢献したジョン・ベーツ・クラーク(1847 - 1938)の理論形成過程を示す、F. H. ギディングズ(社会学者・経済学者)宛の未公表自筆書簡およびその関連資料292点からなっています。クラークの書簡は266通にのぼります。これについては、「資料」にあるように、既にすべて解説・整理・編集され、英文解説付きで公表されています。

イギリス功利主義・原典コレクション



J. S. Mill's Autograph manuscript journal kept during his stay in France, July 20-September 15, 1820

これは、井上琢智教授の解題にもあるように、ベンサムとミル父子の著作12点と、自筆書簡7通、J. S. ミルの若い時代のフランス旅行日記など、20点からなっています。今後これらの書簡や日記の本格的な研究が待たれております。これはまた、直接的にはミル父子著作文庫と関連し、それを補うものです。

3) 人文科学関係コレクション

人文科学関係のコレクションについては、私の専門外なので、いずれ適当な方が全体としての特徴について詳しく明らかにされる機会の来るのを期待したいと思います。私は素人ですが、とりえず私なりの感想を以下に述べることにしたいと思います。人文科学関係のコレクションは、きわめて多彩であり、社会科学関係のものにあるような共通した枠組みに類したものはみられないようです。

丹羽記念文庫

まず最も特色あるコレクションのひとつは、戦後、柴田文庫に次いで、1959年に特別文庫となった丹羽記念文庫です。これは明治・大正・昭和に及ぶ近代詩歌集約2,000点と、与謝野晶子の第1歌集『みだれ髪』、および雑誌『明星』を含む、詩歌集と短歌雑誌約30種、評論・研究書からなる、わが国近代詩歌関係の優れたコレクションです。

これは歌人だった丹羽安喜子さんが収集された2,968冊に及ぶコレクションです。丹羽安喜子さんは、日露戦争に出征した弟に「君死にたまふことなかれ」と詩った浪漫主義短歌を代表する与謝野晶子とその夫、鉄幹に師事した歌人でした。丹羽安喜子さんの没後、コレクションは夫の丹羽俊彦、元関西学院理事によって本学に寄贈されました。

『みだれ髪』の初版は、図書館でのちに追加購入されたものですが、元の文庫には3版と4版があります。『明星』はよく揃っていますが、なかでもその第1号～第5号はとくに貴重とされています(これは特別に表装され、貴重図書室に入られています)。このコレクションは、とくに貴重なものを含むので、堺にある与謝野晶子・鉄幹の記念館からしばしば特別貸出しの依頼が来るほどです。



『みだれ髪』(1901年)

佐藤 清文庫

次に挙げるべきは佐藤 清文庫でしょう。これは元本文学部の英文学教授、佐藤 清氏の全蔵書5,598冊(うち洋書3,739冊、和漢書1,859冊)であり、19世紀イギリスのロマンティズム文学、とくにテニスン、ブラウニング、キーツ、シェリーなどの詩を中心としたコレクションです。教授は1910年(明治43年)に東京帝国大学英文科を卒業し、関西学院へは1913年(大正2年)高等学部文科教授となり、1923年(大正12年)まで10年間在職しました。その間、1917年(大正6年)から2年間関西学院からイギリスに留学。もっぱらロンドンのブリティッシュ・ミュージアムで英文学の研究をされました。東山正芳、元文学部教授が目録に書いておられるように、関西学院の英文科は佐藤教授によってその基礎が築かれたのであり、原田の森時代の教え子には、志賀 勝、寿岳文章ほか、由木 康、岩橋武夫などが出ています。

教授は英文学会で活躍しただけでなく、詩人として多くの詩集をだすと共に、『関西文学』や『想苑』など、文学雑誌を起し編集者としても活躍しました。とくに当時、文学部の学生だったモダニズム詩人、竹中 郁や、詩集『たんぽぽ』(1927年)で知られる農民詩人の坂本 遼、さらに足立巻一といった詩人・作家たちの輩出に貢献されました。教授は好んで神戸市外、西灘村に住まいしましたが、学院に来られた翌年に第1詩集『西灘より』(1914年)を出しています。詩、散文、訳詩を集めた『佐藤 清全集』3巻(詩声社、1963-64年)が遺されています。

近世史料コレクション



酒造家の引札(江戸時代の広告)(「灘酒造業関係文書」)



酒造組合文書(江戸時代)(「灘酒造業関係文書」)

このほか、「資料」にあるように、古代ギリシャ・ローマ史に関する研究によって学士院賞を受けられた栗野教授の文庫、哲学・教育学に関する哲学者高坂教授の文庫、東欧諸国関係資料の梅田文庫、宗教改革史・教会法史コレクション、キリシタン関係中心の室井文庫など多彩です。これらについては、とりあえず「資料」を参照してください。

こうした多彩ななかでも、とくに重要なものに、本学図書館が所蔵するわが国近世文書史料群があります。これについては『史料目録』が出ているので、その一覧が可能です。これらの多数の近世文書のうち、本学の教授だった柚木重三教授が収集され、それを駆使して子息の元学長柚木 学教授が研究を大成した近世灘酒造業に関連した文書類や、『東寺文書』の貴重な一部、さらに最近寄贈された明治政治史関連文書など特色ある文書が多数含まれております。



足利直義裁許状(1340年)(「東寺百合文書」)

4) 特別コレクションに関連したいくつかのエピソード

これらの特別コレクションを調査したさいに出合ったり感じたりしたこと的一端を、エピソード的に述べたいと思っていましたが、時間の関係でごく簡単にしまして、後は「資料」に委ねたいと思います。

そのひとつは、ロック著作文庫を調査した際、そのうち、初版が2種類あって、どちらが本物の初版かをめぐる問題に出合ったことです。そのひとつが、ロックの『人間知性論』初版(An Essay concerning Humane Understanding, London. Eliz. Holt, for T. Basset, 1690, [L-22])についてです。

これはロックの書誌学的研究で知られるクリストファーセンのビブリオグラフィ(H. D. Christophersen, A Bibliographical Introduction to the Study of John Locke, Oslo, 1930.)によれば、前者の『人間知性論』は上記のホルト(Holt)版と呼ばれるものとは別に、モーリー(Mory)版(Printed for Tho. Basset, and sold by Edw. Mory at the sign of the Three Bibles in St. Paul's Church Yard. 1690.)の2種類が出ております。これは、ロンドンの出版者であるトマス・バセットがホルトとモーリーという二人の印刷者に印刷

させたために起こったことです。

この2冊のうちどちらが本物の初版なのか、つまりどちらが初版の1st issue(第1刷)なのか、クリストファーセンは2種類を挙げただけで断定しませんでした。しかし、のちにオックスフォードのクラレンドン版『ロック全集』を編集したニディッチ(P. H. Nidditch)は、ホルト版を1st issue だとしています。

そこで、本コレクションの[L - 22]を調査したところ、インクによる手書きの訂正が4箇所見つかりました。このようなミスのある版が1st issueと考えられるところから、ホルト版こそ本物の初版ということになっています。本コレクションの『人間知性論』はこのホルト版であり、本物の初版であることが確認されたわけです。

もうひとつ、『教育に関する考察』初版も2種類あり、これについても、本コレクションを調査したところ、その[L - 112]は、second issueであり、事実上の第2版とみなし得るものであることが分かりました。このような細かな調査には時間がかかり、エネルギーを消耗しますが、これは同時にドキドキする楽しい感動の時でもあります。

もうひとつのエピソードというのは、自筆書簡の解説に関するものです。スミス著作文庫にあるヒュームから親友スミス宛の未公開自筆書簡を調査・解説し、最終的に『アダム・スミス全集』の書簡集に入って、関西学院大学所蔵と明記されるまで、とてつもない時間とエネルギーが必要でした。

もうひとつはクラーク = ギディングズ往復書簡解説のケースです。この場合には、書簡は266通という大量であり、その解説は気の遠くなるようなtime-consumingな仕事となりました。しかしこれによって本大学図書館が所蔵するコレクションを世界の学界に発信する義務を果たすことができ幸いでした。

5) まとめ：本大学図書館所蔵特別コレクションの4大特徴

以上をとりまとめるとしますと、関西学院大学図書館蔵書(とくに特別コレクション)の特徴を大きく4つに整理できるのではないかと思います。

第一の特徴は、みてきたように、政治思想、経済思想、社会思想を中心とした17・18・19世紀にわたるイギリスを中核に一部フランスを含む社会科学古典資料のコレクションにあるといえます。さらにこれに関連して文部科学省からの助成を受けたゴールドスミス = クレス・ライブラリーとカール・メンガー文庫の膨大なマイクロフィルムが加えられ所蔵されております。

ここに取上げた11のコレクションは、その一つ一つはやや小振りではありますが、相互に関連し、補完し合うものであり、全体を合わせると約3,000点にも及ぶ質的に高い大型コレクションを形成しているとみることができます。これは全体として本大学図書館の誇りうる蔵書となっています。今後こ

れらの一層の補充と補完によって、さらに充実したコレクションに仕上げ、その特徴をますます発揮できるようになることを期待したい。

第二の特徴としては、日本史、日本経済史、日本政治史などに関連したわが国近世文書の所蔵を挙げることができません。

第三の特徴としては、文学関係であり、近代詩歌関係の丹羽記念文庫と英詩・英文学関係の佐藤 清文庫を挙げることができます。丹羽記念文庫を生かして、その後の近・現代詩歌関係の資料の収集・補完が重要ではないかと思われます。また、佐藤文庫を基礎に大正・昭和時代に本学文学部が果たした近代詩や文学とのかかわりと、その輝かしい役割の解明や、その後の英文学関係の文献の補充が必要ではないかと思われます。2004年は神戸・関学が生んだモダニズム詩人、竹中 郁の生誕100年になります。竹中 郁、坂本 遼、足立巻一、その他今日ではほとんど忘れられた本学や本学出身の詩人・作家たちを中心とした近代詩や創作の歴史における貢献をあらためて明らかにし、それを大学として効果的に発信することが望まれます。

そして第四には、本学のキリスト教およびキリスト教主義に関連した神学・キリスト教関連資料、宗教改革史・教会法史、室井文庫、ケルケゴール関係書、聖書(エラスムス編新約聖書初版、明治初期の日本語聖書、最近入ったグーテンベルク42行聖書原本第2巻、2葉、4頁を含む)などがみられます。これは今後一層の充実が必要ですが、キリスト教主義大学としては、とくに聖書関係の優れたコレクションの収集が望まれます。

・特別コレクション収集の発展に向けて

1. 特別コレクション構築の基本方針の確認

まず第一に重要なことは、既に指摘したように、特別コレクション構築の基本方針を確認することです。特別コレクションは、実験系分野で大型実験設備が不可欠であるのと同様に、非実験系分野における研究上不可欠な資料です。したがって、このコレクション・ビルディングは、個人研究、グループ研究を含めて大学の研究促進上、決定的な重要性をもつという認識がまず重要であることは言うまでもありません。

特別コレクションは自然にあるいは偶然に形成されるものではありません。それは長期にわたり、継続して、計画的に構築されねばなりません。この長期性、継続性、計画性が不可欠です。それには大学図書館だけでなく、大学、学院としての研究促進、アカデリズムの振興政策の一環として、それを明確に位置付けることが必要です。大学図書館の強化、とくに特別コレクションの充実、大学の研究・教育水準の向上との間に密接な相互作用があることはいまさら言うまでもないからです。この目的を達成するためには、具体的な

制度化の整備が重要です。本大学図書館の特別コレクションの収集時期を見ればわかるように、1960年代以降、約40年ほどの間にその主な収集が行われ、とくに積極的となったのは1960年代に入ってからです。これは大学・学院における特別図書購入制度の開始と関連しております。単なる思いつきによる所蔵といった無計画で消極的な方法ではなく、大学・学院が図書館と一体となって、こうしたコレクション・ビルディング政策を進める必要があります。これに限らず、こうした基本的な考え方から、さまざまな制度的工夫・改善を行ってゆくことが求められています。

2. 特別コレクションの管理・保存・利用体制の一層の整備、情報の発信、他大学図書館との交流

これと同時に特別コレクションの管理・保存に力を入れ、利用体制を一層整備することが必要です。さらに重要なことは、特別コレクションや貴重資料の所蔵に関する情報の内外への発信と、他大学図書館との交流の促進があります。それには例えば次のようなことが考えられます。

- 1)既にこれまで行われてきましたが、特別コレクション目録の刊行と改定・整備(とくに追加補充の多い『ロック、スミス、ミル父子文庫』の改定が必要) 定期的な特別展示と学術資料講演会の開催、図書館報『時計台』その他の学内メディアの活用による学内外への情報発信の促進。これには、ホームページの活用や絵ハガキの作成・頒布なども含まれます。
- 2)特別コレクション・貴重資料を利用した研究、個人研究だけでなく、とくに異なる領域の専門家グループによる共同研究プロジェクトの検討が大切です。
- 3)本学ほどの規模をもつ大学図書館が普通備えているように、図書館報『時計台』とは別に、調査・論文も含む一層本格的な『大学図書館年報』のような定期刊行物の発行が検討されてしかるべきでしょう。
- 4)他大学図書館、とくに海外の優れた大学図書館との提携、相互交流の検討・促進(本大学図書館職員が海外の大学図書館において本格的に研修する機会の制度化も含めた)が必要でしょう。
- 5)各専門学会とのさらに積極的な関係の維持・促進(展示・講演会などで)。
- 6)国際化を促進するため、図書館内での新しい体制作りが必要になります。

3. 特別コレクションの具体的補充と補完

社会科学関連コレクションと人文科学関連コレクションに関して、それぞれ個別のコレクションの補充の必要につい

ては既に指摘しておきました。それぞれのコレクションに関する権威あるビブリオグラフィーによって、補充の基本的枠組みを用意しておくことが重要であり、出来れば補充の優先順位をあらかじめ考えておくことも必要でしょう。

これまでに所蔵する特別コレクションとはまったく異なるコレクションの新たな所蔵も考えられますが、現在のコレクション全体の特徴を生かし、それを一層発展させることになるという意味での「補完」が、今のところ一層有効な戦略ではないかと思われます。

4. おわりに

以上に述べた観点を具体的な制度化・システム化に生かし、一層の発展を図ることがいま求められています。それは、ただ本大学図書館や本大学自身だけのためではなく、世界の大学・大学図書館・研究者を視野に入れた国際的利用による貢献を目指すことが望まれています。最後に、この大学図書館が今後質的にますます充実・向上し、関西学院大学の教育・研究のレベルアップに大きく貢献することを心から願い、この講演を終わることにいたします。



田中 敏弘(たなか としひろ)
関西学院大学名誉教授

専攻は、経済学史(18世紀イギリス、近代経済学史及びアメリカ経済学史)、社会思想史。著書に『社会学者としてのヒューム』(未来社)、『イギリス経済思想史研究』(御茶の水書房)、『アメリカ経済学史研究』(晃洋書房)などがある。1992年～1998年まで関西学院大学図書館長を勤めた。

講演会「資料」

・ 関西学院大学図書館 特別文庫リスト (コレクション名、点数、冊数、図書館受入年)

1. 社会科学関係

- 1) トマス・ホブズ著作文庫(トマス・ホブズの著作とその研究文献) 138点、160冊、1997年。
- 2) ジョン・ロック著作文庫(ジョン・ロックの著作とその研究文献) 224点、328冊、1983年。
- 3) アダム・スミス著作文庫(アダム・スミスの著作とその研究文献、ヒュームのスミス宛自筆書簡1通を含む) 117点、256冊、1982年、のち追加。
- 4) スコットランド啓蒙思想史コレクション(D. ヒューム、ケイムズ卿など18世紀スコットランド啓蒙思想関連の原典) 190点、371冊、1983年、のち追加。
- 5) ジェイムズおよびジョン・ステュアート・ミル著作文庫(ミル父子の著作とその研究文献、J. S. ミルの自筆書簡6通を含む) 171点、357冊、1983年、のち追加。
- 6) イギリス社会政策コレクション(16世紀から20世紀初頭までのイギリスの貧困・救済・慈善・公的給付に関連した体系的コレクション) 320点、471冊、1997年。
- 7) イギリス社会科学古典資料コレクション(17～19世紀の経済・社会思想に関する多くの稀覯本を含む著作・パンフレットからなり、上記の1)～6)および下記8) 9)を補完するコレクション) 370点、304冊、1997年。
- 8) 柴田文庫(ロバート・オウエン、メリー・ウォルストンクラフト、ウィリアム・モリス、トマス・ペインなど18～19世紀イギリス社会思想に関連したコレクション。北野大吉[1898 - 1945] 元本学高等商業学部教授が、同窓の柴田享一氏[1892-1947]の篤志をもとに収集したもの) 318冊、1949年。
- 9) 堀文庫(ブルドン、コベットなど19世紀イギリスおよびフランス社会思想史関連書171点。堀 経夫教授[1896-1981] 元本学学長の旧蔵書の一部。なお教授の没後寄贈された洋・和書、和雑誌および教授自身のノート、原稿、日記、書簡などを含む) 1,243点、919冊(うち和書528) 1968年、1982年。
- 10) クラーク = ギディングズ往復書簡(1886 - 1930) 292点(貴重図書)
The Correspondence of John Bates Clark written to Franklin Henry Giddings, 1886-1930. A Collection of 266 unpublished and hitherto unknown letters together with related material including 25 letters from Simon Nelson Patten to Giddings and one letter to F. H. Giddings from Böhm-Bawerk, Eugen (June 27, 1890).(アメリカにおける近代経済学の成立に最も大きな貢献をのこしたジョン・ベーツ・クラーク[1847 - 1938]の理論形成を示す友人のF. H. ギディングズ宛の書簡とその関連資料) 1995年。
- 11) イギリス功利主義・原典コレクション(貴重図書 8 冊、ミル父子の著作12点と書簡7通、J. S. ミルのフランス旅行日記など20点からなる) 2000年。
- 12) 赤井文庫(西洋古代法制史関係が中心。赤井 節[1925 - 66] 元本学法学部教授の旧蔵書、1945 - 65年に刊行された研究書が主体) 942冊(うち和書402) 1966年。
- 13) 小宮文庫(シェフレ、シュパン、ゴットルの著作やシュモラーなど一部歴史学派の著作を含む近代ドイツ経済学関連書。小宮 孝[1902 - 75] 元院長の旧蔵書の一部) 247冊(うち和書5) 1976年。
- 14) 恒藤文庫(国際法・外交史および経済学関係書。ドイツ語、フランス語の研究書が多い。旧大阪商大教授で戦後大阪市立大学長を務められた恒藤 恭教授[1888 - 1967]の旧蔵書の一部) 777冊(うち和書367) 1960年。
- 15) 山本文庫(財界人で元学院理事、第5代図書館長[1938 - 43]を務められた山本五郎氏[1879 - 1969]の旧蔵書。法律・経済・思想・歴史・宗教など多岐にわたる) 和書475冊、洋書358冊、計833冊、1969年。

2. 人文科学関係

- 1) 丹羽記念文庫(明治・大正・昭和に及ぶ近代詩歌集約2,000点と与謝野晶子の第1歌集『みだれ髪』初版や雑誌『明星』を含む、歌集、短歌雑誌約30種、評論研究書からなる近代詩歌関係のコレクション。その浪漫主義短歌を代表する与謝野寛(鉄幹)・晶子に師事し、与謝野晶子の愛弟子だった歌人の丹羽安喜子氏[1892 - 1960]が収集した資料を、夫の丹羽俊彦、元関西学院理事を通じて寄贈されたもの) 2,968冊、1959年。
- 2) 佐藤 清文庫(19世紀イギリスのロマンティズム文学、とくにテニスン、ブラウニング、キーツ、シェリーなどの詩を中心とした英文学関係コレクション。佐藤 清[1885 - 1960] 元本学文学部教授の蔵書) 5,760冊(うち和書2,021) 1962年。
- 3) 粟野文庫(碑文、パピルス文書の刊本を含む古代ギリシャ、ローマ史関連のコレクション。粟野頼之祐[1896 - 1970] 元本学文学部教授の蔵書) 1,321部、1,896冊、1973年。
- 4) 高坂文庫(カントなど近代の哲学書、歴史書、および大学論を主とし教育関係書を中心とした哲学・教育学関連書。哲学者の高坂正顕[1900 - 69] 元本学文学部教授の旧蔵書) 2,112冊(うち和書4) 1970年。
- 5) 梅田文庫(ビザンティン帝国史関連資料を含む東欧諸国関係資料のコレクション。梅田良忠[1900 - 61] 元本学文学部教授の旧蔵書にギリシャ正教聖フランチェスコ修道院からの寄贈書を追加したもの) 1,682冊、1966年、1971年。
- 6) 宗教改革史・教会法史関係文献(宗教改革の神学および19世紀以来の教会法関係のコレクション) 981冊、1983年、(現在冊子目録作成中)。



ジョン・ステュアート・ミル(中村正直訳)
『自由之理』1872年
(ジェイムズおよびジョン・ステュ
アート・ミル著作文庫)



Jus ecclesiasticum Protestantium,
1717-1736
(宗教改革史・教会法史関係文献)



関西学院大学図書館
特別文庫目録

- 7) 室井文庫(大正～昭和に刊行されたキリシタン関係、日本キリスト教史、南蛮文化に関する和書。大阪市立盲学校校長等を歴任された室井庄四郎氏[1893 - 1962]の収集になるもの) 571冊(うち洋書2) 1963年。
- 8) 玉林文庫(ドイツ語史およびゲーテ関係書。玉林憲義[1907 - 96] 元本学文学部教授の旧蔵書) 和書340冊、洋書165冊、計505冊、1978年。

・ 関西学院大学図書館 特別文庫目録リスト

- 1) 『丹羽記念文庫目録』(近代短歌関係) 第1輯、1965年、「序文」(実方 清)「序文」(大道安次郎)
- 2) 『佐藤 清文庫目録』(19世紀英文学関係) 第2輯、1967年、「序文」(大道安次郎)「あとがき」(東山正芳)
- 3) 『柴田文庫目録』(19世紀イギリス経済・社会思想関係) 第3輯、1972年、「序文」(前田正治)「柴田文庫と北野教授について」(堀 経夫)
- 4) 『栗野文庫目録』(古代ギリシャ、ローマ史関係) 第4輯、1974年、「序文」(小関藤一郎)「栗野頼之祐先生と栗野文庫について」(関西学院大学文学部史学研究室)
- 5) 『ロック、スミス、ミル父子著作文庫目録』、第5輯、1985年、「序文」(金子精次)(解題なし)
- 6) 『関西学院大学図書館所蔵 特別文庫目録一覧』、第1分冊、1992年。(上記1)～5)からなる)
- 7) 同上、第2分冊、1993年。(赤井文庫、堀文庫、小宮文庫、高坂文庫、室井文庫、玉林文庫、恒藤文庫、梅田文庫、山本文庫からなる)
- 8) 『特別コレクション目録』(新大学図書館完成記念):トマス・ホップズ著作文庫・イギリス社会政策コレクション・イギリス社会科学古典資料コレクション、第6輯、1997年、「序文」(田中敏弘)「トマス・ホップズ著作文庫について」(岡本仁宏)「イギリス社会政策コレクションについて」(池田 信)「イギリス社会科学古典資料コレクションについて」(篠原 久)
- 9) 『スコットランド啓蒙コレクション目録』、第7輯、2001年、「序文」(丸茂 新)「スコットランド啓蒙コレクションについて」(竹本 洋)

・ 『関西学院大学図書館所蔵史料目録』

- 1) 第一輯(1984年3月)近世史料、5,244点
- 2) 第二輯(1988年3月)同上、5,368点
- 3) 第三輯(1998年3月)同上、5,000点

・ 関西学院大学図書館特別展示・学術資料講演会関係資料(パンフレット)

- 1) 第1回 講演会「灘五郷・酒造りの歴史 近世灘酒造業の発展」(柚木 学) 特別展示資料紹介(柚木 学)(1992.10.) [これは当日配布された資料]
- 2) 第2回 講演会「シェイクスピア本文の系譜 著名な版本をめぐって」(中條和夫) 特別展示資料紹介(中條和夫)(1993.6.)
- 3) 第3回 経済学の成立、講演会「経済学の成立 アダム・スミスとジェイムズ・ステュアート」(小林 昇) 特別展示資料紹介「アダム・スミス著作文庫を中心に」(田中敏弘・篠原 久)(1993.10.)
- 4) 第4回 近代詩の展開、講演会「近代詩の展開 『明星』を中心に」(中島洋一) 特別展示資料紹介『丹羽記念文庫』について(中島洋一)(1994.5.)
- 5) 第5回 経済学の発展、講演会「経済学の展開 ミル父子を中心として」(杉原四郎) 特別展示資料紹介「ジェイムズおよびジョン・ステュアート・ミル著作文庫」について(田中敏弘) 特別展示解説(井上 琢智)(1994.10.)
- 6) 第6回 近代イギリス社会 思想と文化 大学図書館開館記念、講演会「経済学成立期の諸相 アダム・スミスとその最初期批判考」(杉山忠平) 開館記念コレクション紹介「トマス・ホップズ著作文庫」(岡本仁宏)「イギリス社会政策コレクション」(池田 信)「イギリス社会科学古典資料コレクション」(篠原 久) 特別展示資料解説(篠原 久)(竹本 洋)(1997.10.)
- 7) 第7回 講演会「ホップズのアボリアとgenerosity」(岡本仁宏) 特別展示資料解説「トマス・ホップズ著作文庫から」(篠原 久)(1998.11.)
- 8) 第8回 明治・大正の文学者たち、講演会「書簡資料に見える文学者たち」(清水康次) 特別展示資料解説(清水康次)(1999.11.)
- 9) 第9回 「明治政治史」関係書翰、講演会「明治政治史の新解釈～関西学院大学図書館所蔵『安田書翰』をふまえて」(宮地正人) 特別展示資料解説(宮地正人)(2000.11.)
- 10) 第10回 経済思想家の手稿と自筆書簡、講演会「関西学院大学図書館所蔵資料の特徴：その発展のために 特別コレクション・自筆書簡・手稿・その他貴重資料を中心に」(井上琢智)(篠原 久)(竹本 洋)(田中敏弘)(2001.10.)



関西学院大学図書館特別展示・
学術資料講演会パンフレット

『時計台』(関西学院大学図書館報)に掲載された文献紹介・資料紹介



関西学院大学図書館報『時計台』

- 1) 柴田文庫について(久保芳和) No.1、1971.9.
- 2) 丹羽文庫について(実方 清) No.2、1972.1.
- 3) 佐藤清文庫について(東山正芳) No.3、1972.6.
- 4) 池内文庫について(吉田和夫) No.4、1972.12.
- 5) 高坂文庫によせて(久山 康) No.5、1973.6.
- 6) 「日本近代化」研究の資料について(小関藤一郎) No.6、1973.12.
- 7) 栗野文庫に寄せて(柘植一雄) No.7、1974.6.
- 8) 郷土の資料(柚木 学) No.11、1976.4.
- 9) 室井文庫について(梅田安之) No.12、1976.11.
- 10) The North American Reviewの解説(天川潤次郎) No.13、1977.4.
- 11) COMEDIES AND TRAGEDIES (中條和夫) No.14、1977.11.
- 12) Goldsmith's-Kress Library of Economic Literatureについて(田中敏弘) No.15、1978.4.
- 13) 梅田文庫(杉村貞臣) No.18、1979.11.
- 14) 「死海写本」(復元) (城崎 進) No.19、1980.4.
- 15) ローラー文庫について(会計学関係) (平松一夫) No.20、1980.10.
- 16) 本館所蔵「東寺文書」について(芝 英八郎) No.23、1981.10.
- 17) 『中国方志叢書』について(稲葉一郎) No.25、1982.6.
- 18) アダム・スミス著作文庫について(田中敏弘) No.26、1982.11.
- 19) 堀文庫について(田中敏弘) No.26、1982.11.
- 20) イギリス革命史料Thomason Tracts (1640-1661)について(マイクロフィルム) (川村大膳) No.27、1983.4.
- 21) 「ジョン・ロック著作文庫」および「ジェームズ及びジョン・スチュアート・ミル著作文庫」について(久保芳和) No.28、1983.6.
- 22) イギリス19世紀神学コレクションについて(小林信雄) No.29、1983.11.
- 23) 宗教改革史と教会法史(高森 昭) 同上
- 24) ドン・ヨルダーコレクション アメリカの宗教と文化に関する蔵書 (小林信雄) No.30、1984.4.
- 25) 「松野賢吾博士文庫コレクション」(財政学関係)について(橋本 徹) 同上
- 26) スコットランド啓蒙思想史コレクションについて(田中敏弘) No.31、1984.6.
- 27) ケルケゴール「初版本コレクション」(橋本 淳) 同上
- 28) ポーランド史・ポーランド経済関係資料について(藤井和夫) No.34、1985.6.
- 29) 『ロック、スミス、ミル父子著作文庫目録』の刊行について(整理課) 同上
- 30) ビザンティン帝国史関係資料について(杉村貞臣) No.35、1985.11.
- 31) Adam Smith Collectionと私(田中敏弘) No.36、1986.4.
- 32) 日本古典文学の二つの宝庫より 大東急記念文庫と静嘉堂文庫 (マイクロフィルム) (武久 堅) No.38、1986.11.
- 33) サンフランシスコの邦字新聞 新世界新聞とその周辺(マイクロフィルム) (山本剛郎) No.39、1987.4.
- 34) イギリスの産業国有化と民営化の変遷(池田勝彦) No.40、1987.6.
- 35) La Revue Musicale. Nos.1-380(Paris, 1920-40, 1946-49, 1952-85) (畑 道也) No.41、1987.11.
- 36) 西欧諸国公式統計資料集成(マイクロフィルム) (南 昭二) No.42、1988.4.
- 37) 『関西学院大学図書館所蔵史料目録』第三輯の発刊に寄せて(三浦俊明) No.43、1988.7.
- 38) シェイクスピア文庫 "Bibliotheca Shakespeariana"(笹山 隆) 同上
- 39) 中古・中世・近世 国語国文学資料集成 上・中・下(マイクロフィルム・マイクロフィッシュ) (武久 堅) No.44、1988.11.
- 40) 合衆国判例集(長岡 徹) No.45、1989.4.
- 41) カンバーランド地図(マイクロフィッシュ) (根無喜一) No.46、1989.7.
- 42) The Times(マイクロフィルム) (芝田正夫) No.48、1990.4.
- 43) 下総佐倉藩堀田家文書(マイクロフィルム) (三浦俊明) No.49、1990.7.
- 44) British Parliamentary Papers, 1801-1900 (Irish University Press 1000-Volume Series) (安保則夫) No.50、1990.12.
- 45) アメリカ法基本判例・法令集成(長岡 徹) No.51、1991.4.
- 46) ニーシュラー教授私蔵ドイツ経営経済学関係文庫(海道ノブチカ) No.52、1991.7.
- 47) 丹羽記念文庫(中島洋一) No.54、1992.4.
- 48) 内藤湖南・内藤戊申旧蔵殷周甲骨学金文字関係文庫(木村秀海) No.55、1992.7.
- 49) 「死海写本」(田淵 結) No.56、1992.12.
- 50) 第1回学術資料講演会「灘五郷・酒造りの歴史 近世灘酒造業の発展」(柚木 学) 同上
- 51) 17～18世紀初期英国新聞コレクションマイクロフィルム版(芝田正夫) No.57、1993.4.



『関西学院大学図書館小史』

- 52) 東欧研究の隠れた宝庫 社会主義経済関係図書と梅田文庫 (藤井和夫) No. 58、1993.7.
- 53) 第2回大学図書館特別展示・学術資料講演会「シェイクスピア本文の系譜 著名な版本をめぐって」(中條和夫) 同上
- 54) 明治初期の日本語聖書 大学図書館所蔵の日本語聖書 (田淵 結) No.59、1993.12.
- 55) 英国議会上院日誌(澤田庸三) 同上
- 56) 第3回大学図書館特別展示・学術資料講演会「経済学の成立 アダム・スミスとジェイムズ・ステュアート」(小林 昇) 同上
- 57) 同上特別展示「アダム・スミス著作文庫を中心に」 同上
- 58) 第5回大学図書館特別展示・学術資料講演会「経済学の発展 ミル父子を中心として」(杉原四郎)「ジェイムズおよびジョン・ステュアート・ミル著作文庫」から、No.62、1994.12.
- 59) 関西学院と文芸風土(玉置邦雄) 同上
- 60) トマス・ホッブズ著作文庫について(岡本仁宏) No.68、1999.4.
- 61) トマス・ホッブズ著作文庫から(篠原 久) 同上
- 62) エラスムスのNovum Instrumentum(エラスムス編、新約聖書 初版、1516年)(木ノ脇悦郎) 同上
- 63) 第8回大学図書館特別展示・学術資料講演会「明治・大正の文学者たち」特別展示資料解説(清水康次) 講演会要旨「書簡資料に見える文学者たち」(清水康次) No.69、2000.4.
- 64) 八重津家旧蔵資料について(清水康次) 同上
- 65) 丹羽記念文庫について(中島洋一) 同上
- 66) 旧蔵書簡・手稿寄贈にあたって(八重津洋平) 同上
- 67) 第9回大学図書館特別展示・学術資料講演会「『明治政治史』関係書翰」特別展示資料解説(宮地正人) No.70、2001.4.
- 68) イギリス功利主義・原典コレクション ベンサム・ミル父子の著作・書簡を中心に (井上琢智) 同上

[その他]

1. 「関西学院大学図書館特別文庫・貴重図書」(関西学院大学図書館) リーフレット、1998.4.
2. 『関西学院図書館小史』、関西学院、1990年
3. 『関西学院事典』、関西学院、2001年9月、「大学図書館」・「特別文庫」

・ その他関連文献

1. 柴田文庫について

- 1) 五島 茂『ロバート・オウエン著作史』(1932年)『序文』
- 2) 北野大吉『婦人運動の開祖 メリー・ウォルストンクラフト 彼女の生涯と思想』(1930年)『はしがき』
- 3) 同上、『芸術と社会』(1923年)(モリスについて)
- 4) 同上、『ロバート・オウエン 彼の生涯、思想並に事業』(1927年)
- 5) 同上、「モリスの人及思想」・モリス生誕百年記念協会(関西学院文学会が主体)刊、『モリス記念論集』、1934年。
- 6) 柴田文庫中のモリス関係文献の展示、京都、1934年。
- 7) 大道安次郎「柴田文庫について」・関西学院短期大学商科『論叢』、第6号、1952年10月。
- 8) 縄田栄次郎「柴田文庫分類について」(同上)
- 9) 白井 厚「関西学院大学柴田文庫のこと」・日本生活協同組合連合会機関誌『生協運動』1971年11月。
- 10) 経済学史学会編『日本における経済学史研究十年の歩み』(1961年)

2. その他の文献・展示など

- 1) 久保芳和「四つの文庫 ロック、スミス、オウエン、ミル父子」『学鑑』、83-2、1986.2.
- 2) 井上琢智「J. S. ミルと労働者教育 ミルの未発表六通の書簡について」『経済学論究』、40-2、1986.8.
- 3) アーヴィング・フィッシャー著作コレクション(全61冊の一部)展示、第1回アメリカ経済思想史研究会、1995年6月10日、関西学院大学池内記念館。

・ その他の貴重資料

- 1) James Steuart, A Plan for Introducing an Uniformity of Weights and Measures over the World,... (1778?), (草稿)
- 2) 旧河上 肇氏所蔵 アダム・スミス『国富論』初版本(1776年)(署名入り)
- 3) 兵庫県漁具図解(1897年)
- 4) エラスムス編 新約聖書初版(1516年)
- 5) ゲーテンベルク42行聖書(原本第2巻、2葉4頁)(1455年頃)



『関西学院事典』

6) その他特別文庫や特別コレクション以外の貴重図書多数。

・ 特別文庫・特別コレクション等について紹介した田中の論文・エッセイ・講演など(参考までに)

- 1) 河上肇と『国富論』、KG Today、No.17 (関西学院通信) 1973.6.18.
- 2) 『国富論』初版本と河上肇、『母校通信』、No.51、関西学院同窓会、1974.4.
- 3) Goldsmith's-Kress Library of Economic Literatureについて、『時計台』、No.15(関西学院大学図書館) 1978.4.
- 4) J. S. ミルの肖像画、『母校通信』、前掲、No.68、1982.10.同上転載、『日本ミルの会会報』、4号、1983.4.
- 5) アダム・スミス著作文庫について、『時計台』、前掲、No.26、1982.11.
- 6) 堀文庫について、『時計台』、同上、No.26、1982.11.
- 7) スコットランド啓蒙思想コレクションについて、『時計台』、No.31、1984.6.
- 8) ジョン・ステュアート・ミルによる女性解放への貢献にたいして贈られた感謝状(1870年)、『経済学論究』、39-1、関西学院大学経済学部、1985.5.
- 9) ヒュームとスミス ヒュームのアダム・スミス宛未公表一書簡について、同上、39-4、1986.1.
- 10) Hume To Smith: An Unpublished Letter, Hume Studies, Vol. 12, No.2, Nov., 1986.
- 11) Adam Smith Collectionと私、『時計台』、No.36、1986.4.
- 12) 「関西学院大学図書館所蔵ロック、スミス、ミル父子著作文庫について」(講演)関西学院大学産業研究所主催、経済資料協議会西部部会、関西学院大学池内記念館、1986.7.11.
- 13) ロック、スミス、ミル父子著作文庫、スコットランド啓蒙思想コレクション(関西学院大学図書館所蔵)について『経済学論究』、41-3、1987.10.(上記12)の草稿に基づくもの。
- 14) 「関西学院大学所蔵 経済学古典資料について」(講演)関西学院大学図書館、図書館職員対象、1990.10.26.
- 15) 「アダム・スミス著作文庫」について、「経済学の成立 特別展示資料紹介・学術資料講演会要旨」(第3回大学図書館特別展示・学術資料講演会パンフレット) 関西学院大学図書館、1993.10.
- 16) メンガー文庫と経済学史研究、カール・メンガー文庫マイクロ版集成(推薦文) 丸善、1994.4.
- 17) 「ジェイムズ及びジョン・ステュアート・ミル著作文庫」について、「経済学の発展」(第5回大学図書館特別展示・学術資料講演会パンフレット) 関西学院大学図書館、1994.10.
- 18) マーシャルとJ. B. クラーク 未公開書簡を中心に (1) 『経済学論究』、48-3、1994.10.
- 19) 同上、(2) 同上、49-1、1995.4.
- 20) J. B. Clark and Alfred Marshall: Some Unpublished Letters, Kwansei Gakuin University Annual Studies, Vol.44 March 1996.
- 21) 関西学院大学図書館所蔵「柚木重三教授収集文書」の刊行について、雄松堂書店パンフレット、1995.7.
- 22) 「古典研究(総論) J. B. クラーク文書を中心に」(講演)一橋大学社会科学古典資料センター、1996.10.22.
- 23) 新大学図書館完成記念『特別コレクション目録』について(序文)、『特別コレクション目録: トマス・ホブズ著作文庫、イギリス社会政策コレクション、イギリス社会科学古典資料コレクション』、関西学院大学図書館、1997.10.
- 24) J. B. クラークとF. H. ギディングズ 未公開往復書簡を中心に、『経済論集』(関西大学) 47-5、1997.12.
- 25) J. B. クラークとF. H. ギディングズ 未公表往復書簡の概要について(付英文アブストラクト) 『アメリカ経済思想史研究ニューズレター』、No.3、1997.12.
- 26) J. B. クラーク経済学の展開過程 クラーク - ギディングズ未公開往復書簡からみた、田中敏弘編著『アメリカ人の経済思想 その歴史的展開』、日本経済評論社、1999.9.
- 27) The Correspondence of John Bates Clark Written to Franklin Henry Giddings, 1886-1930, with "the Introductory Essay to the Correspondence: The Development of John Bates Clark's Economic Thought and Franklin Henry Giddings"(7-31) in Research in the History of Economic Thought and Methodology, 18 B, ed. Warren J. Samuels (Greenwich, JAI/Elsevier Inc., 2000): 3-245.
- 28) セリグマンとセリグマン文庫について、セリグマン文庫(1851-1900)マイクロフィルム版集成(推薦文) 雄松堂書店、2001.10.

なお、上記の1)~7)は筆者の『アダム・スミスの周辺 経済思想史研究余滴』(日本経済評論社、1985.2.)に、4) 6) 8)は筆者の『堀経夫博士とその経済学史研究』(玄文社、1991.9.)に、9) 11) 13)は筆者の『ヒュームとスコットランド啓蒙』(晃洋書房、1992.3.)に、そして13) 15) 16) 21) 23)は筆者の『風に思う空の翼 風・光・力』(関西学院大学出版会、2001.10.)に収録されている。



エラスムス編『新約聖書 初版』
1516年



グーテンベルク42行聖書
1455年頃